[東京都国際教育研究協議会]

SDGsに取り組む高校生の研究発表

6回目の開催、ユニークな視点や活動が光る

2022年12月17日、第6回「国際理解および国際協力に関する研究発表会」が拓殖大学茗荷谷キャンパス（東京都）で開催され、6高校から8グループが参加した。同研究会は2016年以降、毎年開催されているが、拓殖大学の協力を得るのは初の試みだ。同大学の学生や留学生による発表や、高校生・大学生が協力するグループワークも行われた。

晃華学園中学高等学校が会長賞を受賞。「GOODスライド賞」は拓殖大学の学生も参加したグループワークで命名された。

将来は再生チョークを途上国へ

国際理解・協力、ボランティアなどに関する活動報告や研究発表を行う本研究発表会に臨んだ参加者は、主に高校１～２年生だった。審査員は拓殖大学国際学部の徳永達己教授、国際協力機構（JICA）東京の徳田進平課長、都立農産高等学校の江森忍校長ほか１名と、国際開発ジャーナル社を代表し筆者が務めた。東京都国際教育研究協議会会長でもある江守校長は、開会のあいさつで「歴史と伝統ある拓殖大学で、高校生の発表会が行われることは大変ありがたい。さまざまな文化を持つ人と一緒に生きていくという発表を聞かせて欲しい」と、参加者を激励した。

国際教育研究協議会会長賞には晃華学園中学高等学校（東京都）の『チョーク再生プロジェクト』が選ばれた。発表者たちは、同校の先輩たちが以前行っていたチョークの粉を収集し固めた「再生チョーク」の取り組みに着目。その取り組みを引き継ぎ、さらに、使いやすさも追及した。そして完成したのが三角柱の形をしたチョークだ。生徒や先生から好評を得たこの再生チョークを、発表者たちは物作りの好きな人々が集う「Maker Faire Tokyo」にも出展。商品化に向けた企業との協力も打診されたという。将来はこの再生チョークを開発途上国の子どもたちにも提供したいと、発表者たちは結んだ。

「もったいない」を歌で世界に

拓殖大学学長賞には、都立五日市高等学校（東京都）・ESS国際交流部による『「MOTTAINAI」を合言葉に、地域と世界をつなげる音楽プロジェクト』が選ばれた。

発表者たちは、豊かな自然環境を守っていく上で日本に根付く「もったいない」の精神がいかに重要かを世界に伝える方法を模索した。そして、高校周辺の森や川での清掃活動経験や、SNSを使い集めた「もったいない」の捉え方についてのアンケート結果を基に、シンガーソングライターの山田証氏の協力も得ながら「使えるものは最後まで工夫して使い切る」「（物に対する）感謝の気持ち」に焦点を置いた歌詞を作成。作曲は地域の協力者である羅久井俊介氏に依頼した。今回の発表会で歌の一部が流れ、徳永教授も高く評価していた。なお、この取り組みは2022年２月に産経新聞社が主催した「高校生プレゼンテーションコンテスト」で最優秀賞に選ばれている。

（本誌企画部・朝比奈 悠介）

受賞結果

◎国際教育研究協議会　会長賞
『チョーク再生プロジェクト』
晃華学園中学高等学校

◎拓殖大学学長賞
『「MOTTAINAI」を合言葉に、地域と世界をつなげる音楽プロジェクト』
都立五日市高等学校

◎国際教育研究協議会　奨励賞

『やさしい日本語』
順天高等学校

『ザンビアの月経処理について』
順天高等学校

『授業から国際協力へ』
順天高等学校

『和を以て喜しと為す～世界を変える』
聖徳学園中学高等学校

『フェアトレード食品の啓発活動』
都立深川高等学校

『世界を救う日本の甘酒Ⅱ ～飢餓ゼロを目指して～』
都立科学技術高等学校